

『もりおかの短歌』

秋の部 優秀賞十首

木枯らしが

こ が

おち

ば

な

ふ

ぬ

落葉を鳴らし吹き抜ける

おと

まち

音もやさしいもりおかの町

盛岡市 赤坂 昌信

早朝の寒さが肌にしみる頃

そうちよう

さむ

はだ

ころ

つつ

あさぎり

包む朝霧

かいうん

はし

開運の橋

洋野町 芦口 このみ

わが祖母の

そ ぼ

せい

かの

な

た

や

ち

よう

生家残れる鉦屋町

く

はや

かね

ね

き

暮れ早くして鐘の音聴こゆ

青森県八戸市 木立 徹

むかし

その昔

たくぼくかしゆう わし くる

啄木歌集を和紙に包み

わか た ひと

若きいのちを絶ちし女あり

静岡県伊東市 北川 純彌

いただき しろ きはだ いはてさん

頂の白さ際立つ岩手山

をを

その雄雄しさを

きぎ い

刻みて生きる

青森県青森市 鈴木 操

だいがく き とりむ

大学のギンドロの木に鳥群れて

ぎんじろ は

銀白の葉に

あき

秋のざわめき

盛岡市 照井 時彦

なかつがわ はは にお いざな

中津川の母の匂いに誘われ

ことし さけ

今年も鮭が

そじょう く

遡上して来る

盛岡市 中島 久光

賢治さん、

けんじ

あなたの愛した学舎の

あい

まなびや

窓のおこうは透き通った秋

まど

す

とお

あき

盛岡市 林 晶子

光原社より

こうげんしゃ

北上川のながれ見え

きたかみがわ

み

心おどらす賢治の世界

こころ

けんじ

せかい

新潟県新発田市 三浦 ユリコ

啄木の歌を手本に詠わんと

たくぼく

うた

てほん

うた

手元に置けり

てもと

お

『一握の砂』

いちあく

すな

京都府長岡京市 吉田 正美

秋の部へジュニア部門へ 優秀賞三首

上の橋 かみ はし

ひいじいちゃんが 作ったと つく

初めて知ったよ はじ すごきことかな

盛岡市 竹田 悠人

四千も よんせん

短歌作った たんか 啄木の たくぼく

人生学びおどろきいっばい じんせい

盛岡市 浅田 健志

岩手山 いわてやま

校庭に立ち こうてい いつ見ても た

気もちおちつき き やる気が出るな き

盛岡市 小笠原 侑良

〔講評〕この度も、岩手山、盛岡の街、中津川遡上の鮭など盛岡の秋の風情に思いを寄せた歌が多かったですね。啄木歌集を抱いて自らの命を絶った女性の歌は痛切。賢治関係の歌三首が入選したのは大きな特徴でした。

平成二十八年十二月選 秋の部

投稿数二百九十六首

選者 八重嶋 勲